

NPO法人 龍ヶ崎ゲヴァントハウス特別企画

講演とコンサート

電気録音100年記念コンサート

今回のCDコンサートは、2025年最初の特別企画として、音楽・オーディオ界の第一人者、元フィリップス・レコード・オランダ本社副社長、新 忠篤氏をお招きし、「電気録音100年記念コンサート」と題して、講演とコンサートを行います。

新氏は月刊「ラジオ技術」及び、季刊「管球王国」等に執筆され、オーディオ界では特にその名を知られており、当会の特別企画にも2012年の初来龍以来、たびたびお越し頂き、すでにおなじみの存在になっています。今年は電気式録音が生れてから、ちょうど100年になります。今回は歴史的背景を辿りながら、名曲「旅愁」を10種類、「セントルイス・ブルース」を11種類集め、いろいろな演奏で聴き比べて、演奏の違いや録音の違いを楽しんでいただこうと思います。

【まえがき】 新 忠篤

1877年に発明王トーマス・エジソン(1847~1921)が円筒型レコードと蓄音器を発明した。その10年後の1887年、エミル・ベルリナー(1851~1929)が平円盤式のレコードを発表した。ベルリナーはドイツのハノーヴァ生まれだが、アメリカに移民した。これらのレコードは、いずれもマイクロフォンやアンプを使用しない機械式録音(ラッパ吹き込み)だった。1920年アメリカでラジオ放送が始まった。マイクロフォンやアンプを使用してレコード吹き込みする方法がアメリカのベル研究所で考案されたが、それにいち早く興味を持ったのは英国のコロンビア社だった。だがベル研究所は特許をアメリカ国外の会社には与えないということで、英コロンビアはアメリカ・コロンビアを買収してしまった。1925年に世界初の電気式録音のレコードはイギリス・コロンビアから発売された。

ブルーノ・ワルター指揮ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団によるワグナー:「ジークフリートのラインへの旅」で、電気録音はレコード番号の末尾にRがついていた。

英COLUMBIA L1636R (原盤番号: WAX-2758 & WAX-2759) (電気録音盤)

英COLUMBIA L1636 (原盤番号: AX-2758 & AX-2759) (機械式録音盤)

その後世界中のレコード会社は電気録音を採用していった。

日 時: 2025年2月8日(土) 午後2時~午後4時30分(休憩10分)

場 所: 龍ヶ崎市 市民活動センター 2階大会議室

講 師: 新 忠篤氏(オーディオ研究家、元フィリップスレコード・オランダ本社副社長)

テーマ: “電気録音100年記念コンサート”

〈新 忠篤氏プロフィール〉

1939年、東京生まれ。元フィリップスレコード・オランダ本社副社長。フィリップス・クラシック社時代に小澤征爾、内田光子ら日本人アーティストの世界市場での販売、展開を手掛ける。コロムビア時代のDXMシリーズの復刻、飛鳥新社出版の、モーツァルト“伝説の録音”の編集・復刻を担当。2015年宮内庁が戦後70年にあたり、昭和天皇が国民に終戦を伝えた玉音放送の原盤の再生を氏に依頼、テレビでも紹介された。現在はフリーランスでSPレコードからの復刻CD企画、オーディオ用真空管アンプの設計、製作を続ける傍ら、「新忠篤オーディオ塾」を主幹、雑誌「管球王国」、「ラジオ技術」等に執筆。

🌀 プログラム 🌀

第1部 唱歌「旅愁」(10種類の聴き比べ)

英語版原曲と犬童球溪訳詞による日本語歌唱

~~~~~ 休憩10分 ~~~~~

#### 第2部 「セントルイス・ブルース」(11種類の聴き比べ)

(曲目別紙参照)

## 第1部 唱歌「旅愁」

### 英語版原曲と犬童球溪訳詞による日本語歌唱

子供の頃よく歌った「旅愁」は日本生まれの歌ではなく、原曲はアメリカの作曲家 J. P. オードウェイ (1824~1880) が1868年に作曲した「ふるさとと母を夢見て Dreaming of Home and Mother」で、明治40年 (1907) に詩人犬童球溪 (いんどうきゆうけい) (1879~1943) によって訳詞された翻訳唱歌だった。1907年に発表された「中等教育唱歌集」に載ってから広く親しまれ、明治・大正のラッパ吹き込みレコードの時代から親しまれてきた。だが初期のレコードには作曲家や作詞家の名前が記載されなかったこともあって日本生まれの歌だと思われてきた。数年前にアメリカ VICTOR のカタログにテノール歌手エヴァン・ウィリアムズによる「ふるさとと母を夢見て Dreaming of Home and Mother」を見つけ約2年かけてSP盤を入手した。この原曲を筆頭に大正・昭和のSPレコードに吹き込まれた「旅愁」集めて聴いてみることにした。

1. ふるさとと母を夢見て (旅愁の原曲) (J.P. オードウェイ) (3:12)  
Dreaming of Home and Mother (J.P. Ordway)  
エヴァン・ウィリアムズ (テノール) Evan Williams (tenor)  
(1916年3月29日機械式録音)  
エヴァン・ウィリアムズ (1867~1918) は米オハイオ州生まれのオラトリオ歌手。生涯に約100枚のSPレコードを米 VICTOR と英 HMV に残した。
2. 旅愁 (独唱) (3:18)  
杉本阿さ子 (歌)、湯前純親 (伴奏)  
(ニッソー・レコード 1922年発売の機械式録音)  
演奏者の経歴は不詳。ニッソー・レコードは大正期にあった大阪の会社。
3. 旅愁 (少女小曲) (3:10)  
村山道子 (歌)、豊田義一 (ハーモニカ伴奏)  
(ニッポノフォン 1925年12月発売の機械式録音)  
村山道子 (1904-1990) は大正中期に童謡歌手としてデビュー。長じてソプラノ歌手として活躍した。
4. 旅愁 (犬童球溪訳詞) (3:15)  
植村輝子 (歌)、松島ツネ子 (ピアノ)  
(コロムビア 1929年10月発売)  
植村輝子はドラマティック・ソプラノとして昭和初期に活躍した。
5. 旅愁 (犬童球溪作歌) (3:14)  
関屋敏子 (ソプラノ)/カルロ・サバンニョ指揮ミラノ・スカラ座管弦楽団  
(ビクター 1929年10月ミラノ録音)  
関屋敏子 (1904~1941) は偉大なソプラノ。イタリア在留中の録音。
6. 旅愁 (犬童球溪作詩・杉田良造編曲) (2:57)  
松島詩子 (歌)/リーガル・オーケストラ  
(リーガル 1933年8月発売)  
松島詩子 (1905~1996) は山口県柳井市出身。1932年音楽教師から歌手に転向。これはデビュー後2枚目の録音。後にキングレコードの看板歌手になった。
7. 旅愁 (Traditional) (3:27)  
モーリス・マレシャル (チェロ)、マキシム・シャピロ (ピアノ)  
(コロムビア 1935年東京録音)  
モーリス・マレシャル (1892~1964) はフランス、ディジョン生まれの名チェリスト。パリ音楽院出身。1935年と1937年に来日、コロムビアに小品16曲を録音した。
8. 旅愁 (犬童球溪作詩・杉山長谷夫編曲) (3:18)  
中村淑子、四谷文子、藤山一郎、徳山たまき (歌) 日本ビクター弦楽六重奏団  
(ビクター 1935年5月発売)  
大物歌手四人の斉唱・重唱が楽しめる。
9. 旅愁 (アメリカ民謡・犬童球溪作詞・坂本良隆編曲) (3:05)  
三枝喜美子 (歌)、コロムビア・オーケストラ  
(コロムビア 1948年発売)  
三枝喜美子 (1921~2000) は武蔵野音楽学校研究科修了のアルト歌手。藤原歌劇団に所属していた。
10. 旅愁 (犬童球溪作詞・オードウェイ作曲・飯田信夫編曲) (3:03)  
藤井典明指揮日本ビクター女声合唱団/大堀敦子 (ピアノ)  
(ビクター 1950年6月発売)  
藤井典明 (1915-1994) は東京音楽学校研究科修了。バリトン歌手として、また合唱指揮者として活躍した。ピアノの大堀敦子は愛知県立芸術大学の名誉教授を勤めた。

## 第2部 「セントルイス・ブルース」

次にジャズの名曲「セントルイス・ブルース」が日本人（日系、二世・三世を含む）によって歌われたSPレコードを紹介する。「セントルイス・ブルース」はアメリカのW.C.ハンディ(1873~1958)が作詞・作曲し、1914年9月に楽譜が出版されたジャズの名曲。レコードの数は1,000種類を越えると言われている。この名曲の初吹き込み盤とラッパ吹き込み時代の名盤3枚を合わせて11枚を紹介する。

1. G. ハップバーン・ウィルソン指揮プリンス楽団 (4:10)  
(米 COLUMBIA 1915年12月18日機械式録音)
2. オリジナル・ディキシランド・ジャズバンド(O.D.J.B.) (Vocal:アル・バーナード)  
(米 VICTOR 1921年5月25日機械式録音)
3. ベシー・スミス&ルイ・アームストロング (3:08)  
(米 COLUMBIA 1924年1月14日機械式録音)

### 以下日本録音のセントルイス・ブルース

4. 沈む夕日よ (セントルイス・ブルース) (W.C.ハンディ作曲-杉田良造編曲-森岩雄訳詞) (3:02)  
川畑文子 (vo) & コロムビア・ジャズ・バンド  
(コロムビア 1933年5月発売)  
川畑文子(1916~2007)はハワイ生まれの日系三世。5歳の時一家はロサンゼルス郊外に転居し、文子はダンスを習い、ニューヨークに出て天才ダンサーの評価を得た。昭和7年(1932年)初来日。コロムビアに36曲のレコーディングをした。これは初録音の中の一枚。
5. セントルイス・ブルース(W.C.ハンディ作曲-奥山雲愛作詞-トーマス・ミスマン編曲) (3:29)  
ミッチ・ウィリアムス (vo)  
(コロムビア 1934年2月14日録音)  
ミッチ・ウィリアムス(1915~1952)はアメリカ生まれ。兄弟3人とサ・ウィリアム・クワルテットを組み上海公演の後、日本に立ち寄り5曲のレコード録音を行った。
6. セントルイス・ブルース(W.C.ハンディ作曲-坂口 淳作詞-井田一郎編曲) (3:20)  
ミッキー松山 (vo) キング・ジャズバンド  
(キング 1938年発売)  
ミッキー松山は戦前、上海を中心に活動した。
7. 浪曲セントルイス・ブルース (上) (平 茂雄編曲)(3:18)  
川田義雄 (吉本シヨウ)  
  
浪曲セントルイス・ブルース (下) (平 茂雄編曲)(3:32)  
川田義雄 (吉本シヨウ)  
(ビクター J837&J838 1939年発売)  
川田義雄 (川田晴久) (1907~1957) は日本を代表するコメディアン。
8. セントルイス・ブルース (W.C. ハンディ作曲)(3:11)  
ワイラナ・グラス・シャック・ボーイズ  
(コロムビア 1939年3月8日録音)  
村上一徳のスティール・ギター、渡辺良のベース、角田孝のギター、山崎彰彦のギターで構成されたグループ。外国原盤の入荷が少なくなった時期に大ヒットした。
9. セントルイス・ブルース (W.C. ハンディ作曲 -大町 夫作詩 -服部良一編曲) (3:31)  
笠置シズ子 (vo)  
(コロムビア 1939年12月11日録音)  
笠置シズ子、服部良一のコンビが生んだ大迫力のセントルイス・ブルース。日米戦争末期の沖縄戦で米軍兵士がこのレコードを見つけ祖国に持ち帰り、作曲者のハンディにきかせたところ、涙しながら聴いていたという話がある
10. セントルイス・ブルース (W.C. ハンディ作曲-藤浦こう作詩 -馬渡誠一編曲)(3:05)  
池 真理子 (vo), コロムビア合唱団、コロムビア・オーケストラ  
(コロムビア 1950年7月発売)  
池 真理子(1917~2000)は京都出身。宝塚歌劇団24期生。セントルイス・ブルースの他、大ヒットした「ボタンとリボン」等があった。
11. セントルイス・ブルース (W.C. ハンディ作曲-小沢直興志編曲) (3:15)  
三味線 豊吉、ビクター・オーケストラ  
(ビクター 1953年7月発売)  
三味線 豊吉(1903~1964)は東京・神田生まれ。楽譜の読める三味線奏者として、放送やレコードによって名が広まった。